

「佛母寺だより」は無料、不要の方は一報ください

佛母寺だより 第10号

発行・佛母寺 〒299-1601 富津市田倉942-13

住職・松原覚樹

Tel:0439-37-2336 Fax:0439-37-2378

上記につながらない時は Tel:03-3451-1853; Fax:03-3451-6094

Website:www.butsumoji.com

暦の上ではもうすぐ春というのに、ことのほか厳しい寒さが続いています。鹿野山の紅梅に続き白梅も満開となる春が楽しみです。

檀信徒の皆様には於かれましては如何お過ごしでしょうか。

正月の修正会（祈祷会）には多数ご参拝下さり誠にありがとうございました。また、三が日には600名ほどご来山・参拝頂きまして、大変のどかで、にぎやかなお正月でした。本尊摩耶観音さまに手を合わせる人でいっぱいでした。きっとそれぞれ福の神を連れてお帰り頂いたことでしょう。

昨年12月25日に、佛母寺総代、前田ヒサ様、藤村薫様、矢田洋三様より、本堂法要椅子を七十二脚ご寄贈いただきました。檀信徒の皆様が腰を掛けられるようにとの思いでご寄贈いただきまして、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。あらためて、この場をかりて御礼申し上げます。

彼岸過ぎるまでは、温かいようでも急に寒くなることがあります。ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

平成24年 2月2日 バークレーにて

春彼岸会ご案内

今年のお彼岸は、3月17日より23日までです。仏壇に茶菓、お花をお供えし、ご家族でお参りしましょう。当寺では、下記の如く春彼岸法要を行います。是非ご都合つけられましてご参拝下さいますようご案内申し上げます。

記

3月18日（日曜日）

午前11時、彼岸法要・法話

塔婆の申し込みは、同封の「返信はがき」をご利用ください。もちろん、電話・ファックス・メールなどでもお申込できます。

また、当日の彼岸会には出席されないけれども、塔婆をご希望される方は、お墓参りされる時までに用意致しますので、お早めにお申し込み下さいますようお願い致します。その際、参拝日の予定もお書き添え下さると幸甚です。

春彼岸会の塔婆は3月いっぱいまで残しています。彼岸法要に欠席された方も墓参りに来山の折、各自でおたて下さい。

佛母寺ミニ法話

これから皆様と少しずつ白隠禅師（近代日本臨済宗中興の祖：白隠慧鶴1686－1769）の有名な「夜船閑話」を読んでいきたいと思ひます。

夜船閑話 序 窮乏菴主餓凍選

「夜船閑話」は白隠禅師による坐禅・瞑想をとおしての健康法が、その内容になっています。こんなことを申してはどうかといわれそうですけれども、白隠禅師が若かりし頃、坐禅をやりすぎて、禅病にかかってしまいます。白隠禅師ともあろう達人が禅病になるなんてといふかるでしょう。しかし、事実だったのです。

症状としては、両脚が氷や雪のように冷たく、始終耳なりがしてやみません。以前はそうではなかったのにビクビク、オドオドして神経が参ってしまいました。両腋は常に冷や汗が流れ、目は涙目でウルウルしてなりません。各地に名医といわれる医者をつねても、いっこうにラチがあかないのです。

その時に、ある人からききました。京都の白河の山中に白幽子なる仙人がいて、医の道に大変通じておられるから、是非、診ていただいたらよい、といわれます。ワラをもつかむ思いで、白隠禅師は真冬の白河の山奥にのぼり、氷雪のきびしい中で、白幽子仙人にまみえることができました。

白幽子は白隠禅師を一見したのち、坐禅修行が節度を越えてしまい、医者でも治せぬ「禅病」だと診断されます。唯一、救う道は、「丹田の呼吸法」しかない。それを信じ切って行うことで白隠禅師の重病が治るのですが、その秘法を著したのが「夜船閑話」です。

いわゆる、内観の秘法も面白いけれど、この書き物が、黄帝の錬丹の術、ブッダの足心、荘子ら中国思想家たちへの生命への考え方や、「史記」に出てくる扁鵲らの医術、そして天台大師の「天台小止観」に脈々とつながっていることが、とても興味をわかれます。21世紀に生きる現代人のテキストにはピッタリと思います。

「夜船閑話 序」。旅の途中、夜の船に乗り合わせた客人との雑談の意味です。雑談です、雑談。それですから、どうぞお気楽に。曹洞宗の道元禅師も「正法眼蔵随聞記」で、自分の話を「雑話のついで」、と言っていますね。「序」は序文のこと。「窮乏菴主餓凍選」（きゅうぼう あんしゅ きとうせん）。極貧極乏なる白隠禅師のペンネーム。「選」は選述のことです。

宝暦丁丑の春

「宝暦丁丑の春」とは、宝暦七年、西暦では1757年となります。桃園天皇の時であり、将軍は徳川家重でした。記録によりますと、この春に東海道はひどい洪水に襲われています。1758年の秋に、諸国から白隠禅師の説法を聞きに群をなして集まったともあります。この時、白隠禅師は七十四歳でした。ところで「三代実録」によりますと、わが国が暦を国として正式に用いたのは持統天皇の時代のことで、一条兼良（かねよし）によりますとこの時に採用した暦は、中国の随の開皇二十（600）年になった皇極暦であったとしています。

暦についての研究は、推古天皇の時代から行われていました。実は、暦なるものはわが国に伝えられたのは、推古天皇十年（602）のことで、それも朝鮮半島の百済から観勒法師によってもたらされたことが「日本書紀」に明確にかかれていますね。

それによりますと、「冬十月（かんなづき）に、百済の僧（ほうし）観勒来（もうおもぶ）けり。よりて暦の本（ためし）および天文地理の書（ふみ）、あわせて遁甲方術（どんこうほうじゅつ）の書を買（たてまつ）る」とあります。遁甲方術なるものは「後漢書」の方術伝に出ていまして、それによりますと、どうやら一種の占星術ではないかとされています。

筆がすべったついでに話しますと「三代実録」に、わが国にはじめて暦が伝わったのは推古天皇十年であるが、実際に採用されたのは持統天皇四年（690）十二月と記されています。602年に伝来したものの、それから90年も経ての採用とは、ずいぶんのんびりされました。外来文化を日本「独自」の文化として消化するまでには、時間がかかるのですね。

（つづく）

お知らせ

- ◎ 最近特に、業者と提携して寺院に住せず修行をしたかどうかよく分からないアルバイト僧侶なる者が横行しています。派遣僧侶です。佛母寺のお檀家さんまたは佛母寺墓地に埋葬されるお檀家さんには、佛母寺の住職が戒名を授け、佛母寺の住職がお通夜・お葬式・その他一切の法要を責任を持って執り行わなければなりません。もしも、お檀家さんでお葬式を出す場合、葬儀屋さんとの日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。出来るだけ調整をして、お通夜・お葬式を勤めさせていただきます。また、日程をすでに決めてしまった場合、できるだけ調整しますが、やむを得ない場合、有縁の臨済宗僧侶を紹介させていただきます。また、千葉県以外でお葬式を出す場合、臨済宗の僧籍をもつ僧侶を紹介させていただきます。葬儀の形態、場所にかかわらず、当寺のお檀家さん・当寺墓地に埋葬されるお檀家さんがお亡くなりになった場合、葬儀屋さんとの日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。東京でお通夜・お葬式を出す場合、葬儀屋さんを紹介することもできます。
- ◎ 佛母寺公式ウェブサイトはもうご覧になりましたか？仏事法要申込、ご祈願受付、水子供養、ペット供養、墓地、永代供養塔妙峰殿に関することなど、何でもお気軽にご質問・ご相談ください。 **website: www.butsumoji.com**
- ◎ お電話での寺務所受付は、9:00～16:30 までとさせていただきます。16:30 以降の電話はすべて龍源寺（03-3451-1853）へ転送されます。
- ◎ 今年、年回（以下、年回表）が当たっておられます方は、ご法事希望の日時が決まりましたら、お電話・ファックス、またはウェブサイトの「お問い合わせ」からメールにてお問い合わせ下さい。

次回「佛母寺だより」は、7月発行予定です。

おもな行事	
春彼岸会	3月18日(日)
妙峰殿施餓鬼会	7月第2土曜日
施餓鬼会	8月4日(土)
秋彼岸会	9月22日(土)
除夜鐘	大晦日

平成24年 正当年回表	
1 周忌	平成23年
3 回忌	平成22年
7 回忌	平成18年
13 回忌	平成12年
17 回忌	平成8年
23 回忌	平成2年
27 回忌	昭和61年
33 回忌	昭和55年
37 回忌	昭和51年
50 遠年忌	昭和38年